

私の雑想ノート No.11

職業奉仕の原点はギルドの復活

バストガバナー
塚原 房樹
(札幌東RC)



最初4人で始まったロータリーが、110年後の今、120万人の大所帯となり、世界中でその存在を許されてきました。それには確固とした理由があるはずですが、その理由は何でしょうか。およそ人類文化史上の諸制度は因縁あって栄え、そして因縁あって滅ぶという歴史上の真理に基づきます。ロータリーもその例外でなく、興隆期と衰退期がありました。過去をさかのぼり歴史の上からその興隆期の軌跡を追って見ましょう。

まず1930年から1945年にかけてロータリーはアメリカ社会から絶大な尊敬と信頼の目を持って迎えられました。何か確固とした実践の軌跡を残したに違いありません。アメリカは民間主導の福祉社会だから、労力と時間を割いてボランティア活動をするということはアメリカの国民にとって当然のことであり、別に尊敬と信頼の目を持って迎えらるということはありません。またロータリーが為すべきことでもなかったでしょう。ではいったい職業倫理の提唱団体として具体的に何をしたのでしょうか。

ロータリーができた時アメリカの経済社会に、中世より近世にかけて西欧諸都市において商工業者の中で結成された各種の職業別組合・同業組合は1つもありませんでした。これをロータリーは作っていきました。公共に奉仕する現代の「ギルド」の復活です。このことは商工会議所を倫理を提唱する団体として蘇らせました。この2つはロータリーがアメリカ社会に残した最大の功績なのです。

これこそがロータリーの「職業奉仕」の原点なのです。ではどうしてロータリーは同業組合を組織できたのでしょうか。我々は1業1会員制の原則に基づいて、同業者の中から選ばれてロータリーの会員になったと思っています。しかしロータリーはそのようには考えません。ロータリーの会員は同業者の中から選ばれたのではなく、各々の業界にロータリーが派遣した大使(使節)であると考えます。ロータリーの大使の役目とは、ロータリーの奉仕の理想をロータリアン以外の人にシェアすることが目的です。したがってロータリアンは同業組合を組織して、ロータリー倫理訓(1915年)を基にした企業行動のあり方、職業倫理基準を提唱し広めていったのです。

ロータリアンの数だけ同業組合が組織され、商業道德の高揚は著しいものがありました。この結果ロータリーに対するアメリカ社会の信用が高まり、ロータリーは爆発的に発展するようになりました。